

# インクルーシブ保育に向けた個別指導計画の在り方についての調査

市川奈緒子・仲本 美央

## 研究実績の概要

### 【研究内容と結果】

2020年度の研究は、2019年度におこなった、保育現場（保育所・認定こども園・幼稚園）に対するアンケート調査「インクルーシブ保育に向けた個別指導計画の在り方についてのアンケート（白梅学園大学・白梅学園短期大学「人を対象とする研究」に関する研究倫理審査委員会承認済み・承認番号201817）」の自由記述欄データの分析をおこなった。

その分析は大きく分けて以下の2つである。1つは、特別支援の必要な子どもに対する個別指導計画の作成に関する課題とクラス全体の指導計画との関係性に関するものである。もう1つは、インクルーシブ保育に向けての、保育現場が抱えている困難と課題、および保育現場で取り組んでいる特色ある取り組みに関する自由記述の分析である。

### 1. 個別指導計画の作成に関する課題およびクラス全体の指導計画の関係性の分析結果

回答のあった園のうち多くの園が特別支援を必要とする子どもの保育を経験していることが明らかになったが、その全員の個別指導計画を立てている園は半数程度であり、作成している子どもとしていない子どもがいると答えた園が3分の1以上にのぼった。その理由（自由記述）を定性コーディングを用いて分類した結果、保護者が障害を認識し、園で保育者を加配している子どものみ個別指導計画を作成している園が多いことが明らかとなった。

また、多くの園が、個別指導計画とクラス全体の指導計画とのつながりを明記しており、そのつながりにおける工夫に関する自由記述をKJ法で分析した。保育現場では、まずひとりひとりの子

どもについて、個別指導計画を作成するかどうかを判断し、作成しないまでも特別な配慮を必要とする子どもに対しては、別の文書を作成する等の対応をしていることが明らかとなった（市川・仲本,2021 a）。

### 2. インクルーシブ保育に向けての困難と今後の課題、特色ある取り組みの分析結果

インクルーシブ保育に向けての困難と今後の課題、特色ある取り組みの自由記述を佐藤（2008）の質的データ分析ソフトウェアであるMAXQDA11を用いて分析した結果、困難と今後の課題および特色ある取り組みで出されている園の課題には共通点が多いものの、その課題のとらえ方や向かう視点に大きな違いが見られることが明らかとなった（市川・仲本,2021 b）。

### 【研究の意義】

インクルーシブ保育については、1994年のサラマンカ宣言以降、日本でも目指される場所として重要性が謳われているものの、具体的な取り組みについての指針は非常に少なく、制度的なサポートも薄い。とくに、個別指導計画の作成については、現場に任されているところが多く、試行錯誤の状態である。今回の調査は、現場でどのような試行錯誤がされ、その成果として現在どのような方向性に至っているのか、保育者の目線で現状を明らかにしたということが言えよう。

## 引用文献

佐藤郁哉（2006）.質的データ分析法.新曜社

\* 1 市川・仲本(2021)a.インクルーシブ保育に向けた個別指導計画の現状と課題—保育現場における実態調査を踏まえて—.白梅学園大学・白梅学園短期大学紀要.vol.57.31-48

\* 2 市川・仲本(2021)b.インクルーシブ保育に向けての取り組みと今後の課題—保育現場に対するアンケート調査の結果から—.日本保育学会第74回大会で発表